



2011年3月20日

WiN-Japan からのメッセージ
東日本大震災における原子力災害について

WiN-Japan 会長 小川 順子

2011年3月11日に東北地方太平洋沖を震源とするマグニチュード9.0の20世紀以来最大級の地震が発生いたしました。この地震および直後の巨大津波により、多くの方々が犠牲となり、また被災されましたことについて、深甚なるお悔やみとお見舞いを申し上げます。

この広域激甚災害の中で、福島第一原子力発電所が大きな被害を受けました。運転中の原子炉は設計どおり自動停止しましたが、直後の想定を越える大津波により非常用電源を喪失し、炉心の冷却機能および燃料保管プールの冷却機能を失ってしまいました。原子炉の圧力を低下させるため、格納容器内の圧力を抜く措置を行ったため、排気筒から放射性物質が放出され、一般住民や関係者の放射線被ばくを招く結果となりました。現在、内閣総理大臣が緊急事態を宣言することにより、20万人を超える多くの住民の避難、屋内退避を伴う事態となっています。避難されている皆様はもちろんのこと、被災地域を中心とした国民の皆様が不安を感じながら、固唾をのんで、状況の推移を見守っているところです。

現在、燃料保管プールへの放水作業や電源復旧作業が必死で行われておりますが、予断をゆるさない状況です。

WiN-Japan 会員においても東京電力(株)、東北電力(株)、日本原子力発電(株)、日本原燃(株)をはじめとして被災地の原子力施設で、与えられた使命を必死で遂行しております。またそのほかの会員もそれぞれの地域で、一般国民の不安な気持ちと向き合いながら、やるべき責務を懸命に果たしております。

現時点では、WiN-Japan としては、関係機関の発信情報やメディアから得られる情報をもとに、身近な人々への適切な助言、社会へのわかりやすい情報発信などがなすべきことであると考えております。今後、今回の原子力災害の概要が明らかになってきた時点で、知見と教訓を十分分析し、WiN-Japan として日本の原子力平和利用、特に社会での相互理解活動を中心とした活動に積極的に取り組んでいきたいと思っております。

この広域激甚災害により、今までに醸成されてきた原子力への信頼や、これからのエネルギー供給に原子力をどのように位置づけるかなどについての国民の皆様のご感情は、過去になく厳しいものになると覚悟しております。原子力の仕事に誇りを持って歩んできた私たち WiN-Japan の会員は、これまで何度も試練を経験し、克服してきたつもりですが、今は、虚心坦懐に事態を受け止め、原子力発電と人類の未来のあるべき姿を模索しつつ、新たな決意で取り組んでゆきたいと思っております。

最後に、被災地において、不自由な避難生活をおくられている皆様に、あらためて心からのお見舞いを申しあげるとともに、命の危険を顧みず復旧作業に奔走されている関係者に深い敬意を表し、一日も早い復興を願いつつ、このメッセージをお読みいただいている皆様とともに祈りたいと思っております。

合掌

最新の公表内容等については、以下のHPをご覧ください。

【東京電力 HP】

<http://www.tepco.co.jp/index-j.html>

【東北電力 HP】

<http://www.tohoku-epco.co.jp/>

【原子力安全・保安院 HP】

<http://www.nisa.meti.go.jp/>

【日本原子力学会】

<http://www.aesj.or.jp/>